

日吉台地下壕保存の会会報

発行 日吉台地下壕保存の会

2002年度総会のお知らせ

あつという間に1年が過ぎ、総会の時期になりました。昨年は戦争遺跡保存全国シンポ川崎大会や同時多発テロや大きな出来事がたくさんありました。一年間の活動を振り返りつつ、新年度の活動方針について討議します。また総会後の懇談会では地下壕についての思いをそれぞれの立場から自由に話し合います。是非ご来場を頂き、ご発言をお願いします。

日時：2002年5月25日（土）

午後2時30分開場

場所：慶應大学日吉キャンパス
藤山記念館会議室

総会：2時45分～3時45分

懇談会：4時～5時30分

同時開催：日吉台地下壕見学会

日時：2002年5月25日（土）

午後1時～2時30分

見学希望の方は喜田（045-562-0443）まで
お問い合わせ下さい。



讣報:小島清文氏: 日吉台地下壕保存の会と縁深く関わってくださいました

小島清文氏（82歳）が3月1日ご自宅で逝去されました。「戦争体験を掘り起こす会」や「不戦兵士の会」の発起人として、講演や執筆を通して戦争体験を語り続けられました。保存の会が主催団体である第3回、第6回崎・横浜平和のための戦争展」で講演され、前者講演録は日吉台地下壕保存の会発行の「太平洋戦争と慶應義塾」に収められています。謹んでご冥福をお祈りいたします。

日吉の歴史に学ぶ

運営委員 龜岡毅子

日吉台地下壕保存の会は地下壕の調査・研究や見学会をたいせつな活動としていますが、そのもととなる知識を深めることも同様に重要な活動と見なしています。見学会においても、案内人の正確な知識は何よりも必要とされるからです。運営委員会における学習会に則して「日吉の歴史に学ぶ」を連載します。

慶應日吉キャンパス建設

慶應義塾は、1858年築地鉄砲洲（中央区明石町）に蘭学の家塾として開かれて以来、日本の私学の雄としての歴史を刻んできた。現在の港区三田に移ったのは1871年島津藩松平家邸地1万2千坪の広大な校地である。

しかし明治、大正と学生数は急増し、三田山上では手狭になり、昭和3年の評議員会で大学予科を校外に移す方針が決められた。数カ所の候補地もあったようであるが、折しも東京横浜電鉄から神奈川県橋樹郡日吉村（横浜市港北区日吉町）の地所約7万坪の無償提供の申し込みがあった。渋谷と横浜を結ぶ現在の東横線は1926年（大正15年）に開通しており、沿線の目玉として大学を誘致したと言われている。

義塾はこの申し出を受け、更に4万2千坪の購入と約1万7千坪を借りて、合計13万坪にも及ぶ用地に理想の学園都市を築こうとした。用地は日吉台と呼ばれる多摩丘陵東南端にあり、駅の東側に大学予科のため、また西側にはやがて建築予定の普通部やスポーツ施設のための用地が点在している。昭和7年5月発行の「慶應義塾75年史」には「俗に日吉台と称する独立の高台で樹木多く、山林の趣に富み、風致良く眺望広く武相における景勝の地であって学校用地としては最も好適の場所である。」と書かれている。学校に好適の場所は、戦時下においては海軍にとっても、また米軍占領下にあっては占領軍にとっても好適の場所であったという皮肉な歴史を残すことになった。

勿論当時この事業に携わった人々は夢想だにしなかったであろうが、前出記念誌が配布されたのは昭和7年5月の75年記念祝典においてであって、この時総理大臣として祝辞を述べた塾員犬養毅はその数日後の5月15日いわゆる「五・一五事件」で非業の死を遂げた。

昭和5年東急と本契約を交わし、2年後の昭和7年2月に第一期工事が始まった。その後、およそ2年の工期を経て、昭和9年春、第一校舎（現高等学校）及び陸上競技場とテニスコートが完成した。また駅西方2キロほど離れた現在の港北区下田町のホッケー場、サッカー場も同年11月に完成した。第一校舎はギリシャ風円柱を持つ堂々とした建坪2万五百坪のコンクリート8階建ての大校舎である。2年後に完成した第二校舎（1千坪）とともに曾禰、中条建築事務所が設計、監督にあたっている。現在「かな

がわの建物百選」に選ばれていることからも分かるように、風格のある見事な建物である。この第一校舎では医学部を除く予科生約千人が9年5月1日から勉学を始めた。

2年後に完成した第二校舎は医学部予科校舎と図書室があり、昭和11年度の新学期から使用された。第一期工事で完成したのは上記以外に次のものがある。消費組合、教練場および銃器庫（9月）消費組合赤屋根食堂（10月）バスケットコート（10年度）柔剣道場および浴場（10年11月）体育会事務所（10年11月広尾寮移築）構内の風致には格別の配慮が払われ、並木や植栽、ベンチや外灯にも細心の工夫がこらされた。

建築にあたっては当時の新鋭建築家に依頼し、いずれも美しい建物を実現させた。中でも赤屋根食堂は現高校グランド横にあり、赤屋根に白壁、太い木組みのスイス山荘風の食堂は学生達の何よりの憩いの場所であった。当時の学生生活を振り返った回想記にも必ずといってよいほど登場する。しかしこの建物は戦後占領軍による失火で消失した。体育会事務所も戦時下海軍に使用されていたが、空襲を受け、今は残っていない。また教練場と銃器庫が大学に必要な施設であった点に時代の波の大きさが感じられ、暗澹たる気持ちになる。

次回は寄宿舎とチャペル、続いて藤原工業大学について掲載します。

参考資料：「横浜市史」「港北区史」「慶應義塾75年史」「慶應義塾百年史」
その他多くの記念誌

多摩丘陵ピースロードを歩く ご参加下さい

日吉台地下壕保存の会も主催団体の一つである横浜・川崎平和のための戦争展（私の街から戦争が見える）は、今年10回目となります。毎年イベントとして地下壕見学会を開いていますが、今年は5回の見学会を計画しました。昨年夏刊行の「戦争を歩く・みる・ふれるピースロード多摩丘陵」を手に戦争遺跡を歩き、あらためて戦争と平和について考えるためのイベントです。

行楽、運動を兼ね、是非ご参加下さい。

- | | | |
|-----|-----------|--------|
| 1回目 | 6月23日（日） | 井田・蟹ヶ谷 |
| 2回目 | 7月2日（日） | 宮崎台 |
| 3回目 | 8月18日（日） | 日吉台地下壕 |
| 4回目 | 9月29日（日） | 箕輪 |
| 5回目 | 10月20日（日） | 登戸研究所 |

午後1時から3時間程度のコースです。参加費各500円（通し：2000円）
申し込みは往復はがきで横浜市港北区下田町5-20-15亀岡敦子まで。

歴史の事実を伝える

現場の教育実践に生かされる日吉台地下壕

日吉台地下壕保存の会ではこの間の見学会で、大人達だけでなく若い人、子どもたちにも日吉台地下壕の存在を知ってもらい、歴史の事実を伝える取り組みを行ってきました。その中で下田小学校では6年生の総合の時間を中心に行なう授業の中で戦争について調べ、昨年の11月14日には日吉台地下壕にも見学に来て、郷土を知り戦争と平和について考える学習が行われてきました。

保存の会としても新井揆博運営委員が授業の講師として授業で子どもたちの質問に答え、全面的に協力をしました。保存の会の活動が実際の教育実践の中に生かされ、次世代に伝えられていくということは素晴らしいことだと思います。

担当された先生から実践の報告と子どもたちの感想文が寄せられましたので紹介します。

私たちの町にもあった戦争

横浜市立下田小学校 直井 敦

実践を振り返って 教師の考え方

15年戦争の学習、平和教育について学習していくときに、何か子どもたちが夢中になっていくもの、切実な問題が子どもたちの中に生まれ、それを追求していくことができたらと常常考えていた。その子どもたちにとって学習が切実なものになるためには教材が魅力的であったり、身近であったりすることが大切になってくる。昨年夏に日吉台地下壕を見学する機会があり、これを教材にできないか、子どもたちがこの地下壕にはいったらどのような考えを持つだろうか、ドン亜学習が展開できるのだろうかと私自身も興味を持った。そのために地下壕保存の会の人や慶應大学、そして校長先生などにお願いして教材として使わせていただくことができた。そのことはとても幸せなことだと思います。また保存の会の人達には資料を頂いたり、授業にも来ていただき感謝の気持ちがいっぱいです。

子どもの様子

はじめにお借りしたビデオを見たときに、自分たちが日頃よく見ている場所にこんなものがあるのかと驚いていた。それがどういうことなのかというよりも、行ってみたい、入ってみたいというのが子どもたちの関心事になり、見学することになったことを知る

と一様に本当にできるのかと驚いていた。見学では戦争の跡であるということだけを情報にして日吉台に向かった。見学を終えたあとに子どもたちはたくさんの疑問を持った。「なんのために」「どのように」「何故」「どんなことに使われたのか」というような疑問であった。子どもたちは夢中になり調べ始め、さまざまな事実と出会っていった。その後に「どうして保存していく必要があるのだろうか」という疑問にぶつかった。そこで子どもたち同士でまた戦争があったときに使うのではないか、戦争をしないために残すのではないか、別の利用を考えているのではないか、というそれぞれの考えを出し合い、話し合っていった。

最後に保存の会の人達の話を聞くなかで、自分も何か協力できたら、また戦争についてもっと詳しく調べていきたいという意欲が湧き、その後の学習のエネルギーとなっていった。

その他

戦争の学習というと、ともすると悲惨な状況を調べていっても今ひとつ実感が湧かなかつたり、他人事のように戦争は良くないと終わってしまうことが多いのが、今までの自分の反省でもあった。今回学習を進めて行くにあたり子どもにとって身近な教材が以下に大切なことを知ることができたし、そのような教材と巡り会えたことを幸せに思う。子どもにとってこの地下壕に入った経験は一生残ると思うし、今戦争についてしっかりした考えをもつことができない子どももいつか成長したときにこの時のこの学習を思い出してくれるだろう。そして平和な日本、世界を構築していくこうと考える一つの根拠となっていくことを期待している。

子どもたちの感想から

・ぼくはせんそうの事を勉強してせんそうはいけないことだと思いました。とくにちかごうに行ったときにはなぜのこすのかとききました。かえってきた答えは「これからの人々にせんそうのこわさをしってもらうためだよ」さいしょはどんなみかわかりませんでした。でもべんきょうするうちにりかいしていきました。ほぞんの会の人のおかげでぼくはせんそうがかなしいことだともつと思いました。

・わたしはこんな身近な所に戦争のあとがあるなんてとてもびっくりしました。あと日吉の地下壕から指令がでていたなんてすごいと思いました。そしていろいろ戦争について調べていくうちに戦争がどんなにこわかったかわかりました。だからもう二度と戦争はおきてほしくないです。そして平和な世の中になってほしいです。

・11月14日の地下壕に行ったとき、案ないやいろいろおしゃれててくれてありがとうございます。私は地下壕のゲジゲジがちょっとこわかったけど、ここで作戦をしていたんだなと思うと平気になりました。あとけいおうに地下ごうがあったなんて知りませんでした

した。もし今戦争がおきたら日吉の地下壕は使えるんですか？でも戦争は大キライです。多くの人が亡くなったり、家を焼かれたりするからです。また地下壕に来たらいろいろ教えて下さい。

(保存の会に寄せられた礼状、「ぼくとわたしの心のメッセージ」から)

「地下壕はなぜあるのだろう」

日吉にある慶應義塾の地下壕を見学しました。まず辺りを見学しました。最初に見たのは世界地図が書いてある不思議なカップでした。次に穴がありました。この穴は弥生時代の竪穴式住居の跡です。その横にきのこ型の屋根がありました。そこが地下壕に続いているそうです。

いよいよ地下壕に入ります。中にはいると、まず坂がありました。道はずっと奥に続いています。中は広くて、部屋もたくさんありました。長官室や情報室など大事な仕事をする部屋がありました。途中小さなくぼみがあって、今はコンクリートでふさがれていました。昔はさつき見たきのこ型屋根の所につながっていたのだそうです。中にはそのころはめずらしかったけい光灯のついていたあとや電球のあともあったので、そんな大事なところだったのかと思いました。この地下壕は、戦争のとき、ここでなにをしていましたのかを教えてくれました。太平洋戦争で多くの人が亡くなりました。もう戦争なんかおこさないで平和にしていきたいです。社会科の学習で、この地下壕のことをくわしく調べて学習していきたいです。

☆地下壕見学

地下壕は
未来へ残る
贈り物

地下壕は
昔の人の
メッセージ

地下探検
インディー
ジョーンズに
なった気分

(下田小文集
「下田の子」より抜粋



地下壕から平和と未来を学ぶ小学生、ガンバレ！

会員投稿欄

行って来ました知覧特攻平和館へ

運営委員 常盤義和

港北歴史教室「沈黙の半世紀、日吉の足下戦の跡」(1991・4・1)講師は寺田貞治・中谷俊吾さんのお二人、参加者名簿もきちんと整い、参考資料も1cmほどの厚さがあり、中身も濃く大変勉強になりました。それ以後私はいつの間にか「日吉台地下壕保存の会」の会員になり、現在までお世話になっております。

1943年(昭和18年)4月、国民学校6年生から「神工」建築科に形ばかりの入学、翌月からは、農家や工場、果ては厚木(中津)飛行場などへの勤労動員の連続だった私たち学徒には、国に対する疑問の種ばかり・・・そしていよいよ敗戦間際の「国家的気狂い沙汰」とも言えるあの「神風特攻隊」に慶應の大学生も強制的に入れられ、貴い犠牲者となられたことを知りました。「戦火に散った青春・若き学徒兵二十二歳の遺書・ああ祖国よ恋人よ」を読んですっかり感動、いつの日か知覧へ行こう、この度その本一冊をバッグに入れ、「上原良司」大尉等1036柱の「若き勇士が雲流るる果て、遙か逝きて帰らざる」壮途につかれた思い出深い地「知覧」へ向けて、ワiff同伴の旅(二泊三日)が実現しました。※夫婦とも戦中派で1930年生まれです。(中略)

3月5日(火)は生憎の雨、8時半スタート。「長崎鼻」「池田湖」を後にいよいよこの旅の本命「知覧町」に到着。歴史の面影漂う石垣と生け垣の道。薩摩外城時代の静寂がそのまま残る武家屋敷群のそれぞれに、由緒或る立派な庭園を見学し、昼食。

一部ガイド後、「特攻平和館」周辺は自由見学。懐かしい「陸軍3式戦闘機：飛燕」と「陸軍4式戦闘機：疾風」が目に飛び込んできました。57年ぶりの再会でした。次いで若き特攻隊員の英霊コーナーへ急ぎ、1036柱の中から第56振武隊員「上原良司」少尉(当時)の遺影を二人で必死に探しました。「あったわよ」ワiffの声。本の写真と比べ確認、「最敬礼」と「黙祷」を交えました。中には18歳の隊員もあり、不覚にも涙が出て仕方ありませんでした。特攻隊員達が起居していた「三角兵舎」にも入り、帰るなき機をあやつりて征きしはや開聞よ母よさらばと鶴田正義氏の特攻歌碑や「特攻勇士の像・とこしえに」「母の像・やすらかに」「夢たがい観音」「乙女の祈りの像」英霊の数ほどあろうか、多くの石灯籠が並ぶ「平和記念通り」「平和観音堂」「傍らの「特攻慰靈芳名簿」の裏面に「上原良司」の名前があるのを確認、カメラに収め、この旅の目的を達成し、後ろ髪を引かれる思いで知覧を後にしました。

合掌

会員の皆様へ：会員の戦争や平和、日吉台地下壕に対する思いなどを掲載し、交流する「会員投稿」の欄をもうけたいと思います。400字詰め原稿用紙2~3枚程度、標記の運営委員までお送り下さい。

活動の記録 2002年1月～4月

2002年

- 1月 27日 (日) 日吉台地下壕見学会 (保存の会定例見学会) 10名
 1月 29日 (火) 第8回運営委員会 会報61号発送 (慶應高校物理教室)
 1月 30日 (水) 日吉台地下壕見学会 (矢上小学校6年) 86名
 2月 1日 (金) 地下壕パンフレット作成について (日吉地区センター)
 2月 9日 (土) 日吉台地下壕見学会 (川崎市中原人権学級) 20名
 2月10日 (日) 日吉台地下壕見学会 (府中市青年の家、久末小学校) 50名
 2月19日 (火) 第9回運営委員会 (慶應高校物理教室)
 2月23日 (土) 日吉台地下壕見学会 (大東学園教職員、浜教祖金沢支部) 16名
 箕輪艦政本部地下壕埋め戻し状況調査・撮影
 3月 1日 (金) 日吉台地下壕見学会 (調布学園高校3年、教職員) 52名
 3月 2日 (土) 箕輪艦政本部地下壕埋め戻し状況調査・撮影
 3月15日 (金) 日吉台地下壕見学会 (矢口養護学校他) 45名
 3月25日 (月) 第10回運営委員会 (慶應高校物理教室)
 3月27日 (水) 平和のための戦争展実行委員会 (日吉地区センター)
 3月28日 (木) 日吉台地下壕見学会 (東京マイコープ南部平和委員会) 28名
 3月30日 (土) 日吉台地下壕見学会 (世田谷区教育委員会ピースセンター) 30名

予定

- 4月16日 (火) 第16回運営委員会 会報62号発送 (慶應高校物理教室)

会計の問い合わせ:白鶴邦子 神奈川区白鶴向町120-40 046-402-9090
 その他の問い合わせ:喜田美豊里 港北区下田町2-1-3 045-682-0449
 ホームページアドレス:<http://www.Hanamizuki/2402>

日吉台地下壕保存の会 (年会費) 一口千円以上
 発行 日吉台地下壕保存の会 郵便振込口座番号 00250-2-7-74821
 代表 大西 章 (加入者名) 日吉台地下壕保存の会
 締集 日吉台地下壕保存の会運営委員会